

2021年度 アドバイザリー委員会資料(抜粋)

「JSTのダイバーシティ推進」

2022年 3月16日



科学技術振興機構

前回のダイバーシティアドバイザー委員会でのご意見

ご意見を踏まえたJSTの対応

ジェンダー以外も含むダイバーシティ推進

(年齢、国籍、働く機関などの多様性が課題／研究者以外の人材の育成も必要)

→ファンディング事業における女性・若手研究者の応募・採択比率調査

→若手研究者をターゲットとした研究開発プログラムの推進

→海外研究者の招聘、帰国時の若手スタートアップ支援

ライフイベント支援

(地域や個人に合わせた柔軟な対応／オンライン活用／介護の問題／周囲の理解)

→出産子育て介護制度の改善、周知と申請数推移

→戦略のライフイベント支援の大幅な更新(2月末決定、4月公表)

次世代への取り組み

(理系の仕事・職業の提示／女子中高生に届く媒体／初等教育への働きかけ／保護者の意識変化や教員育成)

→女子中高生向け動画セミナー、理系進路選択支援プログラム実施

→科学オリンピックなどにおける女子生徒の傾向

I. ファンディング事業におけるダイバーシティ推進(含ライフイベント支援)

- 1) ジェンダーに関するダイバーシティ推進
- 2) ジェンダー以外(若手、外国人研究者)のダイバーシティ推進
- 3) 研究者へのライフイベント支援
- 4) ジェンダー分析に関する国際評価の紹介

II. 次世代への取り組み

- 1) 理数で広がる私の未来2021、理系進路選択支援プログラム
- 2) 科学オリンピックなどから分かる女子生徒の傾向

III. ダイバーシティ推進のための更なる取り組み

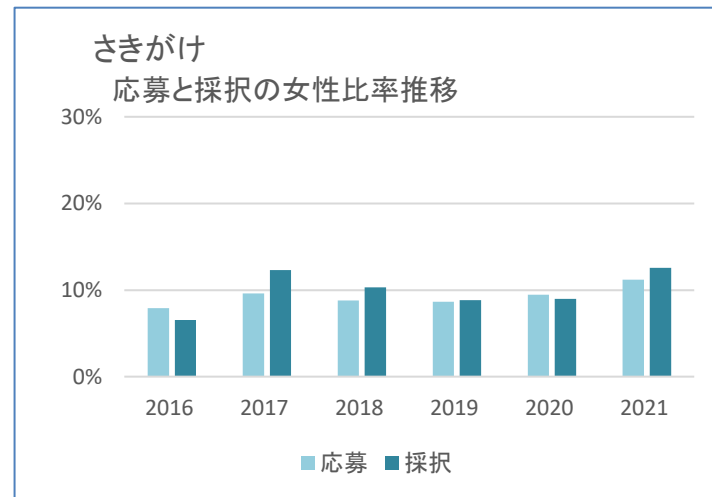
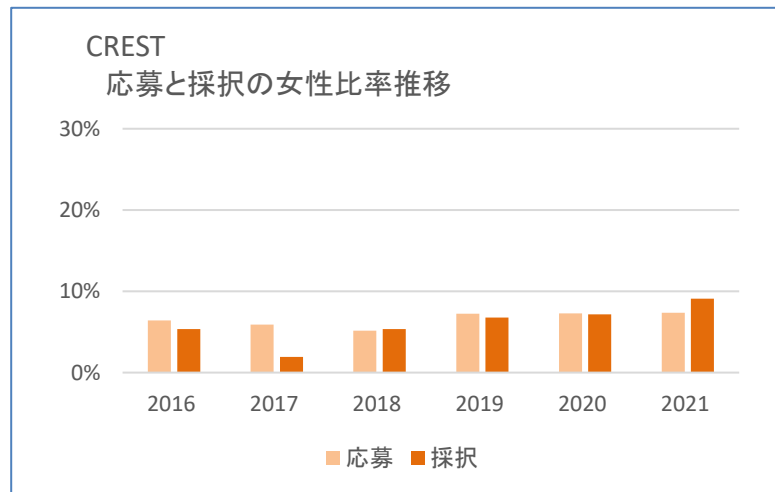
- 1) 2つの女性研究者表彰制度
- 2) JST内部の取り組み

I. ファンディング事業 1) ジェンダーに関するダイバーシティ推進

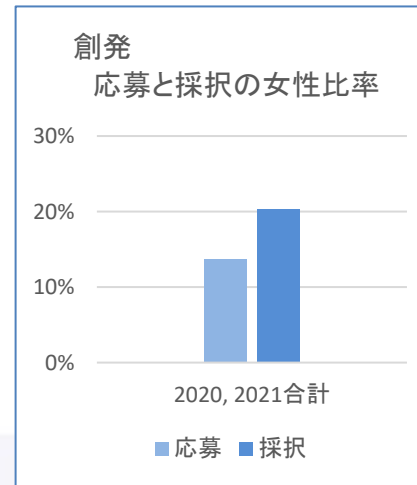
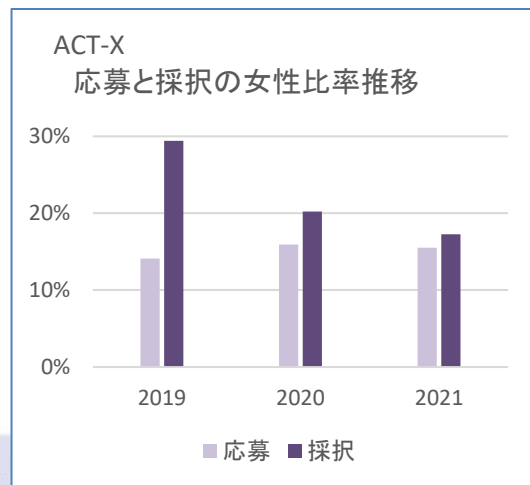
主要各事業への応募と採択の女性比率推移

各事業でも女性研究者の応募・採択はともに低い傾向。そのような中、若手研究者に焦点を当てた新規事業としてACT-X（15%、21% — 3年平均）、創発的研究支援事業（14%、20% — 2年平均）に効果が見られた

・年齢制限等を設けていない事業・・・応募、採択ともに概ね女性比率が10%前後



・若手を対象とした事業・・・応募、採択ともに女性比率が15%前後～20%

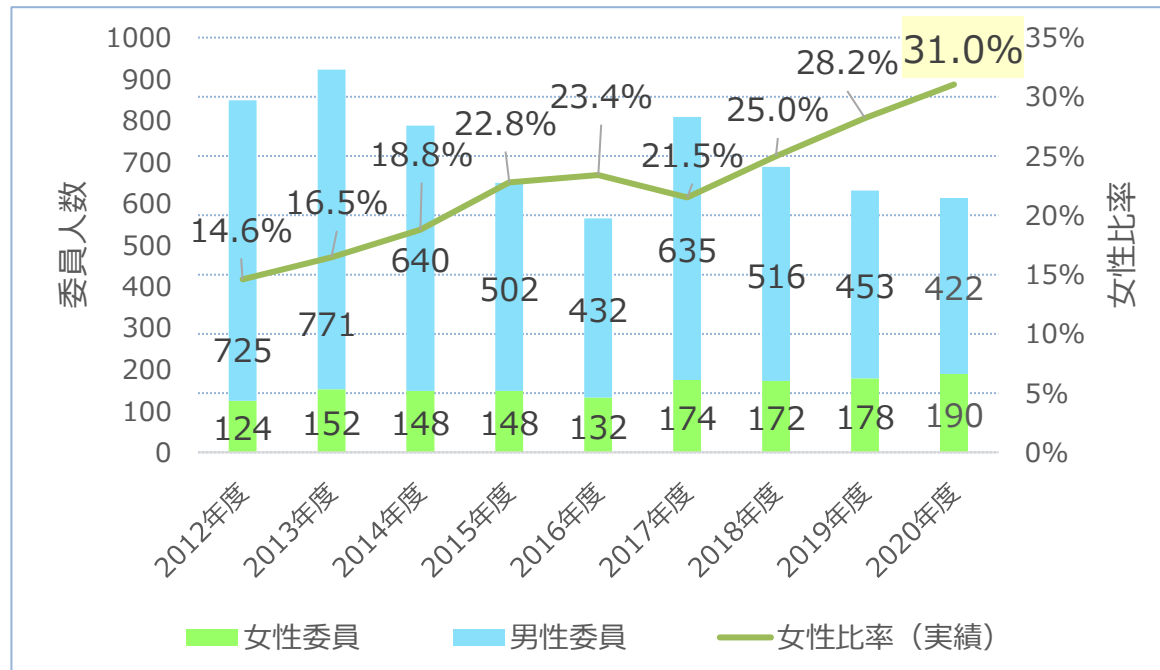


I. ファンディング事業 1) ジェンダーに関するダイバーシティ推進 委員会等における女性比率 推移と取組

JST全体で2020年度末に31.0%を達成、今後も調査を継続

【目標】委員に外部有識者を含む委員会等の女性比率30%を目指す(2020年度末)。

- 委員の女性の割合は2020年度末(2021年3月)に全体で31.0%(190名/612名)となり、目標の30%を達成した。
- 委員長は21.8%(12名/55名)であった。
- 今後は個々の委員会等においても女性の割合が少なくとも30%程度となるよう、調査の継続とともに、各担当部署からの要請により人材を紹介するなどしてダイバーシティの確保に取り組む。

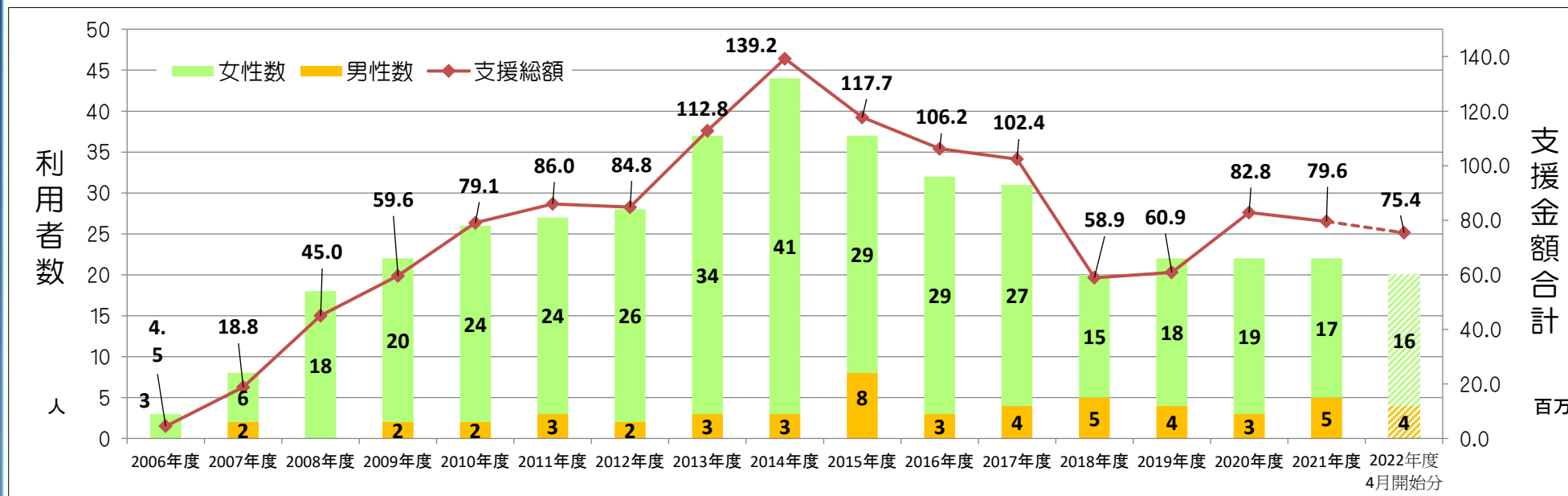


I. ファンディング事業 3) ライフイベント支援

出産・子育て・介護支援制度

- 2020年度制度改善により金額増。さらに2022年4月開始分は2021年度4月に比べ約1.4倍（3/1時点）
- 各事業にさらに周知拡大、利用を推進

【制度概要】・JST事業参画研究者が、ライフイベントに際し研究開発活動の継続に係る支援
・研究費を手当て（最大30万円/月、9歳まで（2020年度から制度改善））。



使途例

- 研究開発機関での実験補助者の雇用経費
- 研究開発促進のための消耗品・機器類購入
- 学会・研究会等へ参加するため臨時的に要する託児費用・研究補助員の雇用経費等（研究開発機関が研究遂行上の必要性を認める場合）

CREST研究代表者・さがけ研究者等のライフイベント支援

2019～ACT-X、2020～創発事業で研究期間中断、延長において事業毎に要望に応じた支援制度を導入

【制度概要】研究代表者等に休暇を必要とするライフイベント(出産・育児・介護)が発生した場合の支援

	チーム型研究(CREST、ERATO)の 研究代表者、研究総括	個人型研究(さがけ、ACT-X、 創発的研究支援事業)の個人研究者
期間中の対応	研究代表者、研究総括に代わりその役割を担える者が代行して引き続き研究を推進することができる。	研究を中断することができる。
研究期間の延長	(チーム型研究のため)研究期間は延長しない。	研究を中断した場合は、研究期間を延長できる。
研究費の取り扱い	(チーム型研究のため)チームとしての研究費は当初計画通りの予算額を使用できるものとする。	研究費は当初計画通りの予算額を使用できるものとする。

【CREST、さがけ、ACT-Xにおける2022年度からの改善点】

- * 育児支援の対象について、子が1歳→3歳まで拡充
- * 連続した期間である必要はなく、複数に分けて支援を受けることが可能に

I. ファンディング事業 4) ジェンダー分析に関する国際評価の紹介

公的研究費配分機関におけるジェンダー分析に関する国際評価

- ・世界の公的研究費配分機関におけるジェンダー分析導入等の調査と分析
- ・JSTも配分機関の一つとして調査に協力

- 世界の公的研究費配分機関を対象にジェンダー分析がどの程度取り入れられているか検証
- 2021年に配分機関を対象にアンケート、回答があった23機関について分析
- Londa Schiebinger教授(スタンフォード大学)の提唱による

評価内容	採点配分
用語の定義	10
提案書ガイドライン	25
評価者に向けた指示	20
研修	25
方針の導入	20
合計	100

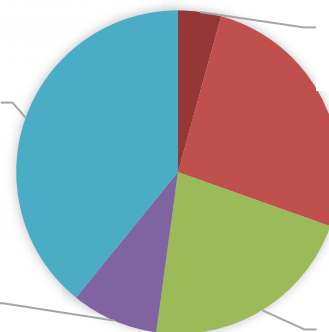


23機関の評価結果

(ハント博士の論文※を基に作成)

改善が必要(9):
0-20, 39%

ある程度の改善が必要(2):
21-40, 9%



卓越した成績(1):
81-100, 4%

優れた成績(6):
61-80, 26%

平均的な成績(5):
41-60, 22%

- Londa Schiebinger教授による解説動画
→日本語字幕を付けてJSTチャンネルで公開

<https://www.youtube.com/watch?v=8kWXLCyDP1M>



※Hunt, Lilian E., and Londa Schiebinger. "Sex, Gender, and Diversity Analysis in Research Policies of Major Public Granting Agencies: A Global Review." OSF Preprints, 16 Dec. 2021. Web.

理系で広がる私の未来

女子中高生・保護者向け 進路選択支援イベント

- ・女子中高生・保護者向けの進路選択支援イベントを開催（5回目）
- ・全国のの中高生がオンデマンドで参加（視聴）可能

■進路で人生どう変わる？

理系で広がる私の未来2021

○内閣府 男女共同参画局 及び 科学技術・イノベーション担当
文部科学省 総合教育政策局 及び 科学技術・学術政策局
JST ダイバーシティ推進室 及び 理数学習推進部



6つの部門で合同企画・運営

○動画セミナーを開催

2021年7月、内閣府や文科省とともに、JSTチャンネル(YouTube)で公開

○対象：女子中高生、保護者、教員等

○内容：①基調講演：田中 沙弥果氏（一般社団法人Waffle Co-Founder/CEO）

②講演： 本多 達也氏（富士通(株) Antennaプロジェクトリーダー）

③理系で活躍する先輩による経験談：

内海 裕子氏（花王(株) 研究員）

岡部 知里氏（日本トランスオーシャン航空(株)

業務企画職(技術系)技術部 エアクラフト技術課）

関根 由莉奈氏（日本原子力研究開発機構 物質科学研究センター 研究員）



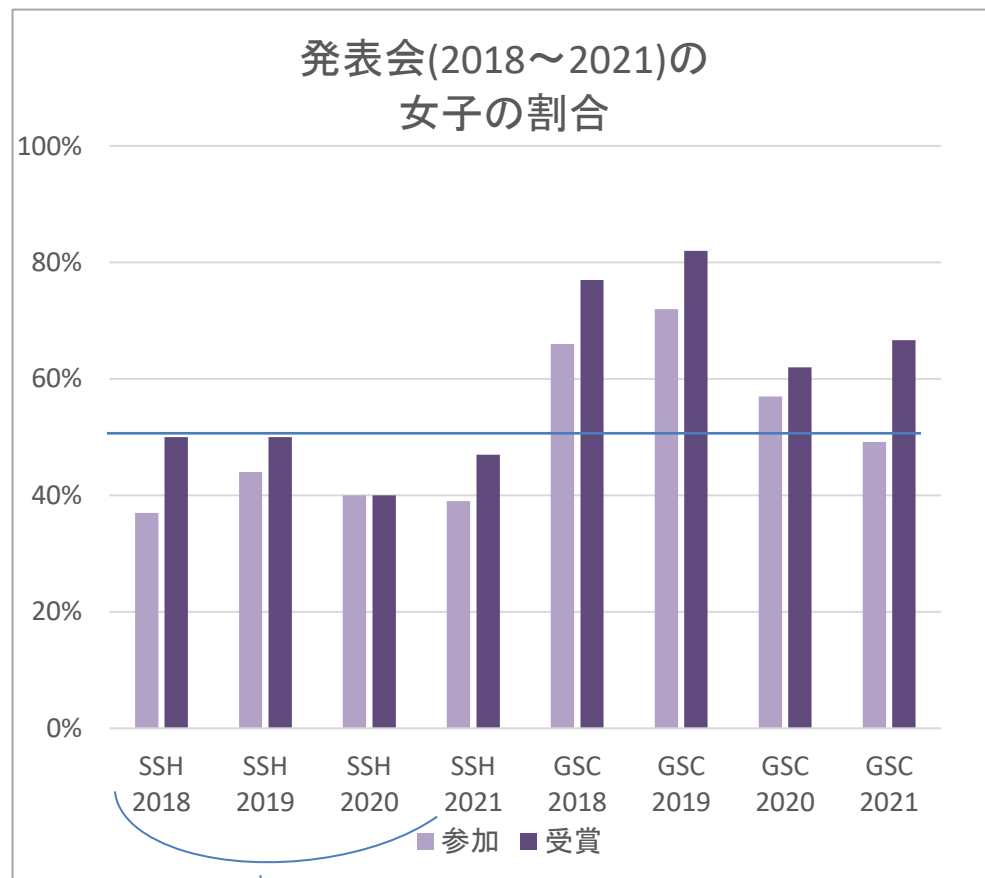
※5コマ・半年で約2,800ビュー

<https://www.jst.go.jp/diversity/activity/seminar/rikejyojinsei2021.html>

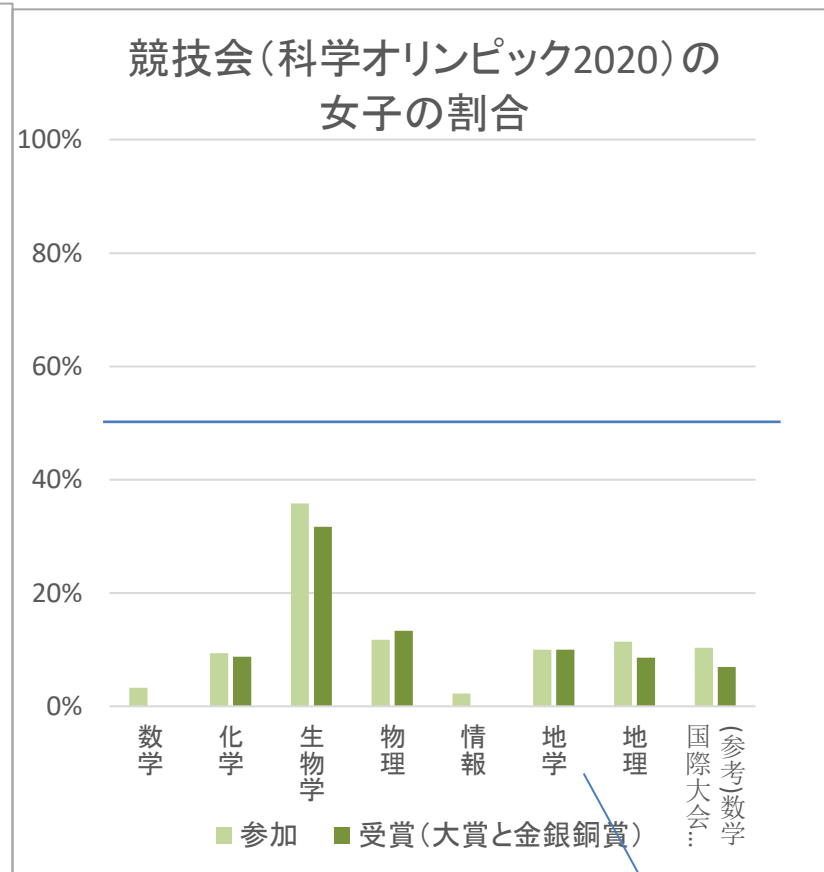
II.次世代への取り組み 2) 科学オリンピックなどから分かる女子生徒の傾向

科学オリンピック受賞者と科学研発表会受賞者の比較

男子は競争での勝利が多く、女子は発表会で表彰されることが多い



SSHは発表者はほぼグループである
ため、グループの男女比を反映



地学は全員受賞

研究発表会 ↔ 科学オリンピック(競争)

Ⅲ.ダイバーシティ推進のための更なる取り組み 1) 2つの女性研究者表彰制度 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞) 概要

優れた女性研究者の活躍を推進する賞を創設し、今年度第3回を実施

趣旨

女性研究者の活躍を推進することを目的に、優れた女性研究者とその活躍を推進する機関を表彰

対象

【輝く女性研究者賞】

女性研究者 1名(自薦/他薦問わず)

- 原則40歳未満(ただしライフイベントを勘案)
- 研究の実績のほか、社会貢献等も評価
- 科学技術に関連していれば分野は問わない

【輝く女性研究者活躍推進賞】

機関 1機関(自薦/他薦問わず)

- 女性研究者の活躍推進に貢献する、他機関のモデルとなる取り組みを行っている機関
- 連携による広がり、効果・成果をも評価

選考委員



鳥居 啓子(委員長)



浅川 智恵子



阿部 玲子



大草 芳江



北川 宏



所 千晴



村山 斉



柳沢 正史

受賞者

■ 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)

佐々田 槇子 東京大学大学院 数理科学研究科 准教授
数理科学(確率論)

■ 輝く女性研究者活躍推進賞(ジュン アシダ賞)

東海国立大学機構 名古屋大学(代表者 総長 松尾 清一)

■ 輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞)

飯間 麻美 京都大学医学部附属病院
先端医療研究開発機構・放射線診断科 助教
生命科学/放射線科学

神谷 真子 東京大学大学院 医学系研究科 准教授
生物有機化学



Ⅲ.ダイバーシティ推進のための更なる取り組み 1) 2つの女性研究者表彰制度 広報、次年度スケジュールなど

- ・第3回は表彰式当日に受賞者の講演も実施
- ・受賞機関の取組紹介のため代表者の動画を公開

受賞者発表、表彰式&トークセッション

- 第3回 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)
表彰式&トークセッション
- 2021年11月3日(水、祝) 13:00~15:30
- 表彰状及び賞牌の授与、受賞スピーチ、
芦田多恵氏とのトークセッションを実施
- Zoom ウェビナーにてライブ配信、アーカイブも公開
- 報道: NHK、新聞、ウェブニュース、
大学プレスリリース等 12件
ジュン アシダ広報誌
「JAマガジン」にも掲載



受賞機関代表者による取組紹介

- 名古屋大学 松尾清一総長とJST渡辺が対談
- 機関による女性研究者支援の好事例として
共有するため、動画公開



<https://www.youtube.com/watch?v=eagMrHJu1po>

受賞記念講演会

- 第3回 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)
受賞記念講演会
- 3月10日(木) 13:00~15:00
- 講演(佐々田槇子氏、飯間麻美氏、神谷真子氏)
JST 濱口理事長とのパネルディスカッション
(ファシリテーター: 渡辺副理事)
- Zoom ウェビナーにてライブ配信、アーカイブ配信予定

第4回に向けて(選考委員会にて決定)

- JST理事長賞は引き続き、甲乙付けがたい候補や業績だけでは計
れない優れた研究者に贈ることがある
- 機関賞は女性研究者・技術者の活躍推進に取り組む機関も対象

第4回 実施スケジュール(予定)

- 応募期間 4月1日~6月30日 正午
- 選考 7月~9月
- 発表・表彰式 11月上中旬

Ⅲ.ダイバーシティ推進のための更なる取り組み 1) 2つの女性研究者表彰制度 羽ばたく女性研究者賞(マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞) 概要

輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)よりも若年層の女性研究者の活躍を推進するため、ポーランド大使館と共催で、2021年度に創設。第1回を実施中

趣旨

日本の若手女性研究者(20歳台後半～30歳台前半)がより活躍することを目的に、駐日ポーランド共和国大使館との共催により、国際的に活躍が期待される若手女性研究者の表彰制度を創設

対象者(自薦/他薦ともに可)

- 2022年4月1日時点で博士学位取得後5年程度までの女性研究者、大学院生(博士後期課程)、及びこれらに相当する者(ライフイベント等を勘案)
- 国籍: 日本、居所: 不問

賞・副賞

最優秀賞1名(賞金50万円)
奨励賞 2名(賞金各25万円)

※最優秀賞にはstudy visit 支援あり

選考委員



募集ポスター



岩崎 明子(委員長)
イェール大学 Professor of Immunobiology、Waldemar Von Zedtwitz 免疫学 冠教授
ハーワードヒューズ医学研究所正研究員



岩尾 エマはるか
Google Cloud
デベロッパーアドボケイト



大栗 博司
東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長
カリフォルニア工科大学
フレッド・カブリ冠教授、
理論物理学研究所所長



小谷 元子
東北大学理事・副学長(研究担当)、
理学研究科数学専攻 教授



染谷 隆夫
東京大学大学院
工学系研究科長・教授
理化学研究所
主任研究員・チームリーダー



沼田 圭司
京都大学大学院工学研究科 教授
理化学研究所環境資源科学
研究センター チームリ



原田 尚美
海洋研究開発機構
地球環境部門 部門長



日比谷 潤子
聖心女子学院 常務理事
国際基督教大学 名誉教授



Tomasz M. Rutkowski
理化学研究所 革新知能統合
研究センター 研究員
東京大学 リサーチフェロー

選考委員長 岩崎明子教授プロフィール



イエール大学 Professor of Immunobiology、
Waldemar Von Zedtwitz 免疫学 冠教授
ハワードヒューズ医学研究所 正研究員

1998年にトロント大学で免疫学の博士号を取得し、米国国立衛生研究所でのポスドクを経て、2000年に現職に就任。

バローズ・ウェルカム基金生物学キャリア賞、ワイス・レダール若手研究者賞、バローズ・ウェルカム基金感染症病態研究者賞、米国免疫学協会功労者賞など受賞多数。

2018年に米国科学アカデミー、2019年に米国医学アカデミー、2020年に米国微生物学アカデミー、2021年に米国芸術科学アカデミーの会員に選出。

現在、研究・科学コミュニケーション・公共サービスに関して、COVID-19パンデミックの最前線に立っている。数多くのメディアで専門家としての見解が引用されており、新型コロナパンデミックの際に信頼すべき50人のトップ専門家の一人とされているほか、ニュースウィーク日本版では、世界で最も尊敬される日本人100人の一人に選ばれている。

科学や医学の分野で活躍する女性や少数派の人々に対して講演などを積極的に行い、ソーシャルメディアには多くのフォロワーを抱えている。

Ⅲ.ダイバーシティ推進のための更なる取り組み 1) 2つの女性研究者表彰制度 スケジュール、広報、応募状況、選考の観点・方法

- ・10～12月募集、12～3月選考、決定、5月受賞者発表・授賞式
- ・選考は書類審査、英語面接、委員会討議。授賞式はポーランド大使館主催

スケジュール

- 応募期間 2021年10月1日～12月13日 正午
- 選考 12月下旬～2022年3月上旬
- 受賞者発表・授賞式 2022年5月(予定)
(授賞式はポーランド大使館主催により実施)

広報

- JST広報誌、ウェブ、メルマガなど
- 選考委員及びポーランド大使からのメッセージ動画をHPに掲載



「JSTのダイバーシティ推進」について
JST広報誌「ダイバーシティ推進」に掲載
YouTubeチャンネル「JSTダイバーシティ推進」



「ポーランド大使館のダイバーシティ推進」について
ポーランド大使館のダイバーシティ推進について
YouTubeチャンネル「ポーランド大使館」

選考の観点(要旨)

- これからの研究者としての将来性(伸びしろ)を重視
- 海外(欧州等)との共同研究・国際協力の意欲を評価
- マリア・スクウォドフスカ=キュリーの偉業を踏まえ、
人類への貢献に向けた志についても考慮

選考の方法

- ◆ 1次: 書類審査 応募フォーム、推薦書2通以上
- ◆ 2次: 面接 オンライン、英語で実施

→選考委員会にて選定、決定の手続き中



菅野 明子 委員長



菅野 エミ 委員



入道 謙司 委員



小池 元子 委員



森田 雅之 委員



沼田 士郎 委員



藤田 真由 委員



日比谷 潤子 委員



Tomasz M. Rutkowski 委員

今回ご意見をいただきたいこと

＜今回ご紹介した現在の取り組みを踏まえ＞

今後のJSTは、ダイバーシティをどのように進めるべきか。

1. ファンディング事業におけるダイバーシティ
2. 次世代への取り組み
3. ダイバーシティ推進の更なる取り組み